

市営バスの認知度の向上と利用の促進

尾張旭市営バス「あさぴー号」を育てる会

尾張旭市

団体概要

団体名： 尾張旭市営バス「あさぴー号」を育てる会

代表者： 会長 寺田 千珠子

団体目的： 市営バス「あさぴー号」の運営に関する取組を通じて、その活性化を図るとともに、市民の生活の足として、「あさぴー号」を守り、育てていくことを目的として活動

活動地域

尾張旭市

取組の経緯・背景と目的

尾張旭市では、バス利用者の減少に伴い、市内の路線バスの一部が廃止されたことから、公共交通に対する市民の関心が高まり、平成 15 年に市民と行政が公共交通の問題について話し合うため「尾張旭市交通問題対策協議会」を立ち上げ、生活交通のあり方について報告書を取りまとめた。この報告書に基づき、新たな交通手段を具体化するため「尾張旭市交通問題懇話会」を平成 16 年に立ち上げ、平成 16 年 12 月から試験運行を開始し、平成 20 年 4 月から市営バス「あさぴー号」を本格運行とし、現在に至っている。

市営バスが本格運行を開始したものの、「あさぴー号」のさらなる認知度向上を図り、バスを守り育てていくため、現状を市民の視点でしっかりと把握し、市民目線で要望や提言を随時行う市民組織「尾張旭市営バス「あさぴー号」を育てる会」を平成 21 年 6 月に発足した。「あさぴー号」の認知度向上と利用促進のための取組を行っている。

市営バス「あさぴー号」の概要		
運行日	平日、土曜日（日祝日及び年末年始 12 月 29 日～翌 1 月 3 日は運休）	
運行ダイヤ	各ルート（西・東）終日 1 時間 30 分ごとに双方向運行 （8：20～17：30 までの運行）	
運行ルート （主な経由地）	西ルート	市役所、旭前駅、旭労災病院、どうだん亭、印場駅、庄南町、本地住宅前、旭前駅など
	東ルート	市役所、旭ヶ丘町山の手、旭台 3 丁目、三郷駅北、三郷南、東部市民センター、愛知医大、市民プール、南原山町赤土など
車両	マイクロバス（東ルート 26 人乗り、西ルート 22 人乗り）	
運賃	1 回乗車ごとに 100 円（回数券 11 枚綴り 1,000 円） ※ただし、次のかたは無料。 ①小学校未就学のこども ②障がい者（児）本人及びその付添い人 1 人	

（平成 24 年 3 月時点）

■取組のポイント

メンバーが無理せず、堅苦しくなく、楽しみながら以下の取組を継続して実施

- ・市営バスの認知度向上のため市開催イベントへ参加
- ・継続的なニーズ把握と情報発信
- ・子どもたちへのバスの利用啓発活動

■取組内容

平成 21 年度／市営バスの認知度の向上と利用の促進

○市開催イベントへの参加を通じた、アンケート・利用啓発活動の実施

「尾張旭駅前にぎわいフェスタ」(H21.10.10)に参加し、イベント来場者への「あさぴー号」の認知度を把握するためのアンケート調査、利用啓発活動(乗車体験、写真撮影会、あさぴー号ペーパークラフト作成等)を実施。



市営バス乗車体験

○会報「あさぴー号だより」の発行

市営バスの利用促進や市民の事業への参加意識の高揚のため、モデル事業期間中に会報を 2 回発行。市広報と同時に全戸配布するとともに、公共施設等でも配布。

○利用者アンケートの実施

利用者ニーズを把握するため、「あさぴー号」にメンバーが乗車し利用者に調査票を直接配布。車内や公共施設の回収箱で回収。

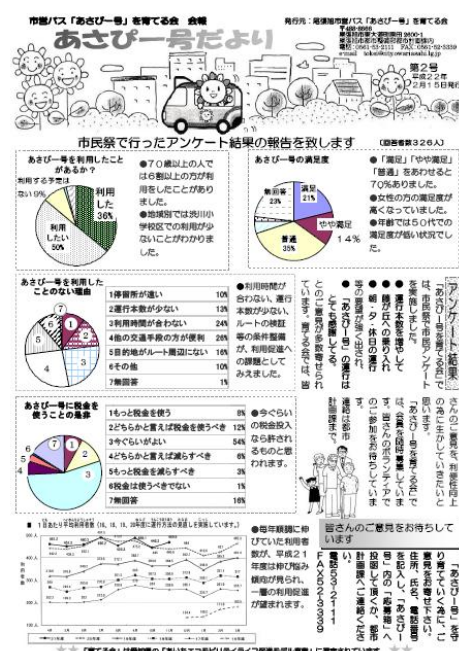
(回収件数 175 件、回収率 69%)

○EXPOエコマネー事業の実施

「あさぴー号」の利用促進と環境に配慮した活動支援を目的に、約 3 か月間、バス車内と尾張旭市役所に専用端末を設置し、利用者に EXPO エコマネーを発行。あわせて尾張旭市役所等において、利用啓発イベントやエコマネーポイントの還元イベントも実施。



エコマネー体験



あさぴー号だより

平成 22 年度／だれもが知っている「あさび一号」を目指して

前年度に続き、市開催イベントに参加、会報「あさび一号だより」発行、利用者アンケートは継続事業として実施。

○市開催イベントへの参加（利用啓発活動の実施）

前年度に続き「尾張旭駅前にぎわいフェスタ」（H22.10.9）に参加し、「あさび一号」により親しみを感じてもらうため利用啓発活動（乗車体験、写真撮影会、あさび一号ぬりえ体験、あさび一号ペーパークラフトの活用、あさび一号オリジナル金太郎飴の配布、「エコモビ」啓発等）を実施。

また、「あさび一号」に乗って楽しんでもらうきっかけとするため、市開催イベントで参加者が作成した「あさび一号ぬりえ」を車内に展示。



あさび一号ぬりえの実施



あさび一号ぬりえ車両展示（車内）

○「あさび一号クイズラリー」の実施

「あさび一号」に対する認知度の向上や商業施設利用者へのPRを目的に、平成 23 年 1 月から 2 月までの約 1 か月間、「あさび一号」等に関するクイズを出題するクイズラリーを実施（参加者 88 人）。正解者には、記念品「あさび一号オリジナルストラップ」を配布。

「クイズラリー応募用紙」を「あさび一号」車内、公共施設及び市営バス停留所付近に立地している市内商業施設に設置し、クイズのヒントを「あさび一号」車内及び市営バス停留所などで掲示した。



クイズラリー実施案内及びヒントの掲示
（商業施設付近に設置してある市営バス停留所）



「あさび一号ストラップ」

○「あさび一号市民講座」の開催

市民の公共交通の重要性への認知度の向上を目的に、「あさび一号市民講座」を開催し、「公共交通とまちづくり」と題して、名古屋産業大学教授 伊豆原浩二氏による講演を開催。(H23.2.26、参加者 40 人)



伊豆原教授講演

○公共交通に係る教材(すごろくと下敷き)の作成

市内の小学生に対する公共交通の重要性の普及啓発を図るために「あさび一号すごろく」を作成し、児童館において2回イベントを開催。また、下敷きを作成し、市内全児童を対象に配布。(5,300 枚)



児童館でのすごろくの様子



下敷きのデザイン(表)

■取組における展開方法・工夫等

- ・一年目はE X P Oエコマナーセンターとの連携、二年目は教育委員会等との連携により事業を展開。
- ・市内の多くの方に効果的にP Rするため、市開催のイベントに参加。
- ・決して無理せず、また堅苦しくなく、参加者が楽しみながら「あさび一号」に親しみを感じてもらえる取組を実施。
- ・継続的に利用者アンケートを実施することで、常に利用者の声を把握し、そのデータを取組に活用。
- ・市内の小学生を対象とした取組を実施することで、幅広い世代にも公共交通の重要性を理解してもらう。

■取組の効果

- ・継続的に利用者アンケートを実施したことで、利用者数・満足度がともに増加。また、会の活動趣旨を理解してもらうことができ、会のメンバーも増加。
- ・小学生への啓発活動や市開催イベントへの参加により、未就学児や児童が「あさび一号」へ手を振る光景がよく見られるようになり、「あさび一号」が、尾張旭市のシンボルと少しずつなっている。
- ・会報「あさび一号だより」に対し、幅広い年代の方から意見が寄せられ、利用者の関心が高まっている。

モデル事業実施後の取組

■取組内容

○市開催イベントへの参加（利用啓発活動の実施）

平成 21 年度から継続する活動として「尾張旭駅前にぎわいフェスタ」へ参加し、「あさび一号ぬりえ体験、あさび一号ペーパークラフト作成」を実施。新たに紙飛行機作成・飛ばし体験も実施。

○停留所における実態調査への協力

メンバーが「あさび一号」の全てのバス停の現地調査を行い、問題点などを市へ報告。

○利用者アンケート調査の実施

利用者ニーズを把握するため、「あさび一号」にメンバーが乗車して、利用者に調査票を直接配布し、車内や公共施設の回収箱で回収。

○会報「あさび一号だより」の発行

年 1 回作成し、市の広報（12 月 1 日号）の発行に合わせて全戸配布。

■取組における展開方法・工夫等

継続的に市開催イベントへの参加、アンケート実施、会報の発行を行い、「あさび一号」をより親しみやすいバスとして感じてもらうことで利用促進を図っている。また、児童などへの啓発活動も継続して行い、家族で楽しんでもらえる「あさび一号」を目指している。

今後の課題及び展開

- ・平成 21 年、22 年度の取組によって「あさび一号」の認知度はアップしている。今後は、これまで以上に、様々な世代に利用してもらえるバスとするための活動を決して無理せず、また堅苦しくなく、参加者が楽しみながら実施していく。
- ・モデル事業で取り組んだ「あさび一号下敷き」による子どもたちへの公共交通の啓発活動や、「公共交通に関する勉強会」による大人への啓発活動を継続して開催し、市民への公共交通の重要性を理解してもらい、「あさび一号」が尾張旭市のシンボルとなるように活動を継続していく。
- ・「あさび一号」によって「外に出かけたくなるまち」の実現につなげ、これによって「人と人とが触れ合う機会」を増やして、コミュニティの活性化にもつなげていく。